

◆連載◆がんの時代 1 病院での検査より自分の直感

リスト・U

「リスト・U」はペンネームです

ある、高名な研究者がいうには、「人間、自分ががんだとわかつたときと最愛の人が

何と私は、このふたつを同時期に経験してしまった、たぶん貴重で稀な人間だと思

両方の体験を詳らかにするのも良いが、それではあまりに自分がかわいそうなので、ここではまず自分のがんについて語ろうと思う。もし待望論があればダブル体験となる恋人の死にも触れてみよう、今はそういうことにしておきたい。

はなく！）を発見したときの動揺や落ち込みを、少なからず救つてくれたとは思つてゐる。 そうはいっても、朝何気なく鏡に映つた左乳房の下にできた「へこみ」、それを発見したときの驚きは強烈なものだつた。しこりならば、もしかして良性？？といふことも考えられるが、腕を思いつきり上げたときだけへこむなんていうシロモノは、ただ事ではない。良性のわけはない。その確信だけはあつた。

ちょうどその日は、実家のある名古屋で仕事があつたため、夜開業している名古屋の、乳腺専門の病院をネットで検索した。一番にヒットしたクリニックに行くことに決め、自宅を後にする。大きな病院の外来というのは、昼間しかやつていない。昼働

マンモも細胞診の結果も出た。マンモは異常所見なし。細胞診は？限りなくクロに近いグレー。決定的な診断はつかない。これ以上はここでは無理との判断で、ある総合病院を紹介してもらう。結局この総合病院が、その後の再発手術も含めて、私がいろいろとお世話になる運命の病院になつた。

で撮った際、形がきれいにまるいのは良性、ギザギザしているのは悪性ということは前から知っていたから、ああ、やっぱりと思う。医者の表情も少し曇った。こういうとき、患者というのは医者の表情にとても敏感なんですね。医療従事者の皆さん、お気をつけあれ。

いている人は、夕方も開業している個人開業医院の扉をたたくしか道はないのだ。このままでは働く人のための医療とはいえないという現状を、改めて憂う。

いている人は、夕方も開業している個人開業医院の扉をたたくしか道はないのだ。このままでは働く人のための医療とはいえないという現状を、改めて憂う。

私が初めてプロ野球を見たのは、今から40年ほど前の小学生のとき。岐阜の郡上から行つた、オヤジの実家がある多治見（市営球場）での中日対阪急のオープン戦だつた。「（阪急のエース）梶本隆夫とは幼なじみで、キャッチボールをやつた仲や！」というのがオヤジの自慢だ。

、第三回 一九二〇年
晩年の小川健太郎、星野、渋谷、伊藤久、水谷寿といった名前が思い浮かんでくる。そして「悪役」ミラー、「守備の人」バートという個性派外国人選手もいたつけ。

本書では、そんな昔から現在に至るまでの、懐かしい選手の名前が次から次へと出てきて嬉しくなった。とくにひと癖もふた癖もある外国人選手とのエピソードは秀逸で、努力家

本をつなぐ

わ れ ら マ ス コ ミ

又会事務局長
校條直

お知らせ
ゆいぽおとでは、みなさまの作品や経験を本にするお手伝いもしています。随筆集、紀行文、自己史、歌集、句集、写真集、絵本などを作成してみたいとお考えの方は、お気軽にお問い合わせください。

編集・出版 ゆいばおと
TEL 052-955-8046
Eメール
yuiyama107@wine.ocn.ne.jp

▶「本をつなぐ」原稿募集中！



◆ドラゴンズ
裏方人生57年
◆著者：足木敏郎
◆定価：1500円
◆発行：中日新聞社
◆ISBN978-4-8062-
0604-0

私のような古いドラ党だけではなく、若いドラゴンズファンにもぜひ読んでいただきたい一冊で、これであなたも、私のように知つたかぶりの「ドラ通」になれること請け合いだ。

世間が「愛・地球博」で盛り上がりで、たころ、二十三年間勤めた会社を辞めて、ひとりで「本づくり」をはじめました。あれから五年。たくさんの人と出会って三十冊以上の本ができました。そして、これまで出会った人、本を通して知り合った人たちとゆるやかでほつとできるようなつながりを持てたらと考えるようになりました。

そこで、このインターネット花盛りの時代に、あえて「新聞」をつくることにしました。この物好きな試みに、快く協力してくださいました関係者のみなさま、ほんとうにありがとうございました。

本紙を読んでくださったみなさまにも、深く感謝申しあげます。ご意見、ご感想などがありましたら、ぜひお寄せください。思いはつながることを信じて、次号は七月一日の発行をめざします。(山)